

令和7年度第1回 生徒による授業評価 教科ごとの分析結果

生徒による授業評価(第1回)を、6月21日～7月19日の間に実施しました。

次の質問について、かなり当てはまる(4点)、ほぼ当てはまる(3点)、あまり当てはまらない(2点)、ほとんど当てはまらない(1点)として点数化し、平均をグラフとして表示しています。(4点満点)

【質問項目】

Q1:毎時間の授業や単元(内容のまとまり)のはじめに学習のねらいを示したり、毎時間の授業や単元の学習のあとに学習したことを振り返ったりする機会がある。

Q2:単元(内容のまとまり)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある。

Q3:単元(内容のまとまり)の学習の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考える場面がある

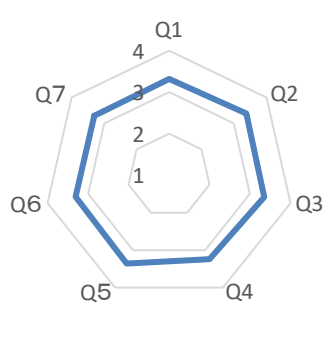
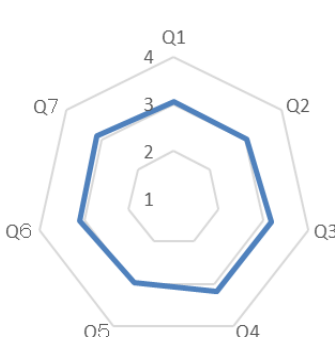
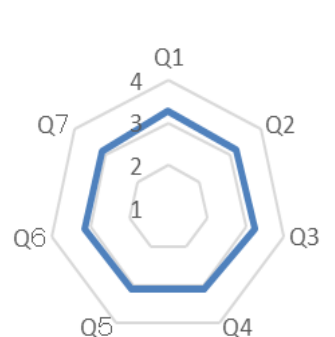
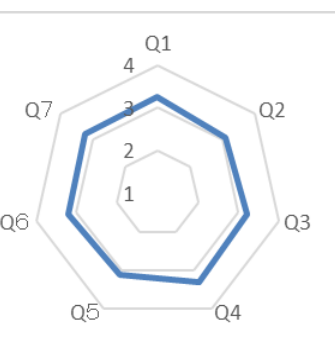
Q4:授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた

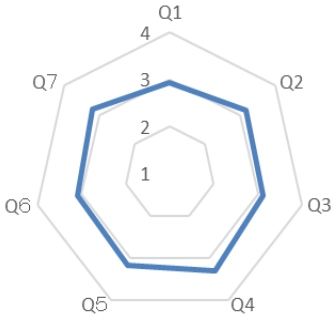
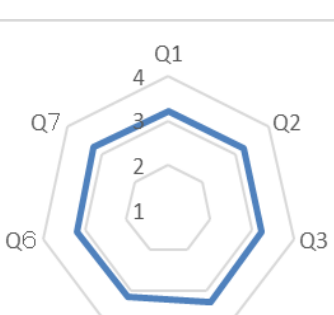

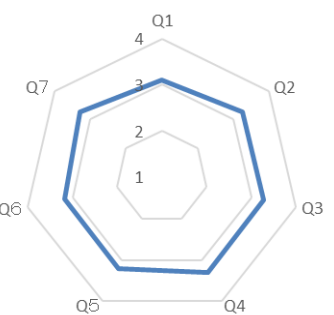
Q5:他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた

Q6:授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法を考えたりすることができた

Q7:授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた

		結果の分析	これからの取組
国語		<p>全体としては、どの項目についても、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答し、授業に対する不満は感じられない。その一方で、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方を知るなど、自らの考えを広げ深めることができた」、「授業で得た知識をもとに、自分の考えをまとめたり、課題の解決方法方法を考えたりすることができた」、「授業で学んだことをそれまでに学んだことと関連付けて理解することができた」の三項目において自己評価の項目がやや低い生徒が見受けられ、発展的に学習していくことの困難な生徒の存在が浮き彫りになった。</p>	<p>深く理解し、発展的に学習していくことのできる生徒とそうした学習が困難な生徒の両極がいることを理解する。その上で、発展的学習のできる生徒をさらに伸ばし、発展的学習が困難な生徒への別な手当の二方向の指導が必要となっていることを鑑み、課題の与え方や発問の仕方について工夫する。また、生徒同士で教えあい、発展させる手立てを考える。</p>
地理歴史		<p>生徒たちは全項目で8割以上が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答し、各授業において満足度が高いことが確認され、全体として授業に好意的な印象を持っていることが分かる。Q6・Q7についての自己評価は毎年高いが、教員側からみると達成度は低いと感じられる。定期テスト前だけ勉強するためある程度の点数はとるが、一定期間経過後、同じ問題を出題しても解けない生徒が多く見られるので、学習の定着が図られていないことが課題である。</p>	<p>学習の定着を図るための指導法の確立が必要と考える。最低限押さえてほしい内容を次のテストでも出題するなど、学習内容を定着させるための方策を考えなければならない。また、思考力や考察力を深めさせる発問や課題に取り組ませて経験を積んでいくことが求められる。授業を一過性のものにせず、生徒に知識の定着だけでなく、得た知識からどのように思考力や考察力を養っていくかを意識させる授業を展開していく。</p>

<p>公民</p>		<p>全体としてQ1とQ3が非常に高評価であり、生徒は自分の力で考えながら課題に取り組めており、また授業内容について概ね理解していることが分かる。また、Q6とQ7も高評価である。授業が分かりやすく、考える力がついていると生徒が実感しているのではないだろうか。一方で、Q5の部分では伸びしろがある。「面白い！もっと知りたい！」という興味関心をさらに引き出していかなければならない。また、自分の考えに基づいた意見が多かったため、根拠や資料に基づく論理展開がやや弱い。全体として、生徒は「理解できた」「意見が持てた」「納得できた」という点で非常に授業に対してポジティブに取り組んでいることが分かった。</p>	<p>①根拠を持って説明する力を育てる。 ・小テストやペアワーク等で「なぜそう思うのか」を言語化させる練習をしていく。 ②関心を高める仕掛けを作る。 ・ロールプレイや討論など、生徒が能動的に参加できる授業スタイルを強化していく。 ・日常生活(選挙、税、賃金など)身近な話題を導入に取り入れる。”</p>
<p>数学</p>		<p>どの項目も、「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」の割合が高く、生徒は授業に前向きに取り組んでいると分析することができる。Q5において「かなり当てはまる」の割合が、他の項目と比較するとやや低い。教科の特徴として、教科書の内容をほぼすべて扱わなければならない、グループ活動等の時間が取りづらいことが考えられる。</p>	<p>生徒間で教えあう時間を作る。教える側、教えてもらう側にも学ぶ意欲が高まり、自身の自己肯定感も上げることができると考えられる。講習等を通して、発展的な内容にも取り組ませたい。また、数学が苦手な生徒には、わかりやすい授業を展開し、基本問題の演習を増やしていきたい。</p>
<p>理科</p>		<p>いずれの項目も「かなり当てはまる」または「ほぼ当てはまる」が8割を超えており、高い評価であった。特に前半3つの質問についてはほぼ9割が満足できる回答であったが、後半4つの質問の満足度がやや低くなっている。授業ノートやポートフォリオによる学習活動、授業ごとの振り返りシートなどを活用した振り返り活動等により、生徒が授業ごとの理解を深めていっているが、各授業や単元の理解をつなげて理解することに意識をした授業展開が必要であると考えられる。</p>	<p>学んだことを生徒自身のものとしたり、それを深めたり、他のものに関連付けられるようにするなどより発展的内容が今後の課題である。振り返りシートの活用、発問や教材を工夫し、改善につなげたい。</p>
<p>保健体育</p>		<p>どの項目についても、8割以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」と回答している。しかし、「単元(内容のまとめ)の学習の中で、他者の考えを知り、自らの考えを広げ深める機会がある」、「他者の考えを知ることにより、新たな考え方ができた」という項目がやや低い。保健においては他者と話す機会や発言などを通じて他者の考えを聞くことがあるが、体育については学習ノートを用いて自分の考えをまとめることで振り返りを行うという点がこの結果に影響していると考えられる。</p>	<p>特に体育において、新たな技能を学習する際やペアやチームで活動する際に、活動内容の工夫や試合に向けた作戦を考える時間を設けるなど、生徒同士で意見を出し合いながら行う時間を増やし、他者の考えをもとに、自らの考えを広げ深めることができるようにする。</p>

芸術		<p>Q4から、授業を通して約9割の生徒が「できるようになったことがある」と実感しており、生徒が粘り強く取り組んだ結果が表れている。また、Q5～7の回答は約8割が「当てはまる」と答えており、自ら考え課題解決に向けて学んでいる生徒が多くいると捉えることができる。しかし、芸術科目において実技に苦手意識を持っている生徒は一定数いるため、深い学びに至る仕組みづくりを行う必要がある。</p>	<p>生徒が粘り強く課題に取り組むことができるよう、単元の思考の過程がわかるワークシートや展開を工夫する。ワークシートに残すことによって、生徒自らの学習を可視化し課題意識を持って取り組むことが期待される。また、ワークシートの評価を行うことで、生徒へのことばがけや授業改善に活かしたい。</p>
外国語		<p>ほとんどの項目において、80%代後半の生徒が4「かなり当てはまる」、3「ほぼ当てはまる」と答えており、昨年度前期に実施したアンケート結果よりも上昇している。入学時に英語が比較的苦手だと答える生徒が多い中で、「分かる授業」作りに真摯に取り組んでいる成果が現れており、授業に対する生徒の満足度が高くなっていることを表していると考えられる。一方で、Q5の結果が、4、3の合計は80%を超えているものの、他の項目の結果と比べて若干低い。この点を今後の授業の中でどのように改善していくかが課題である。</p>	<p>生徒の理解度を上げるためには解説やパターン練習を増やす必要があるが、それを重視し過ぎると、「他者の考えを知る」活動に割く時間が少なくなりがちになる。今後は指定校事業の今年度の研究課題である、「ICTを有効活用した、深い学びにつながる対話的な学び」に則って授業の内容や活動を工夫し、特に生徒同士の対話を積極的に取り入れ、意見を交換したり、相互に教え合うことなどを通して、自身の理解や考えを深める機会を増やしていきたい。</p>
家庭		<p>どの項目においても、85%以上の生徒が「かなり当てはまる」「ほぼ当てはまる」を回答している。しかし、Q1やQ3では、他の質問と比較して、「あまり当てはまらない」や「ほとんど当てはまらない」と回答する生徒が多かった。家庭基礎では、授業で学んだことを実生活に取り入れることで、知識が身に付いたことやできるようになったことを実感できるのではないかと考えられる。</p>	<p>授業の内容を実生活に取り入れられるよう、具体的な例を挙げる。また、授業の最後や単元の最後に振り返りの時間を設けることで、新たに得た知識の定着を図る。アンケートの自由記述では、「スライドの文字が小さい」という意見が数件あった。そのため、1枚のスライドに載せる情報量や内容を見直し、生徒が見やすく分かりやすい教材づくりに努める。</p>
情報		<p>どの項目も高い評価を得ることができた。特にQ3及びQ7では情報を通して課題解決力を日々高め、関連付けることで、実感を伴っていることがわかる。Q1の振り返ったりする場面が1学期では少なかったため、改善が必要である。</p>	<p>本時のねらいを最初に示すとともに、授業の終わりには振り返りをする場面を取り入れる。特に授業の際にはねらいと振り返りを意図的に増やしていきたい。また「対話的な学び」についてはペアワーク等を希望する声もあり、2学期実施していきたい。</p>